

社会国際学教育プログラム

The Undergraduate Program of International Social Studies

- 学士（国際社会科学）
- Bachelor of Arts in International Social Sciences

人材養成目的 / Program Educational Objectives

社会学、政治学、経済学、法学といった社会科学の学際的基盤に立脚し、さらに情報学の視点を補完的に取り入れた社会国際学教育プログラムは、グローバル社会における複雑かつ急速に変化する諸課題を理解し、分析し、的確に対応できる人材の育成を目的としています。学生は、各分野の専門性に支えられた体系的な知識と方法論的技能を修得し、多様な国際的文脈において、柔軟で創造的かつ社会的要請に応答する問題解決に取り組む力を身につけます。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>養成する人材像</p> | <p>本プログラムは、確かな専門分野における能力と、社会科学を横断的・統合的に理解する広い視野を兼ね備えた、次世代のグローバル人材の育成を目指しています。学生は、国際的および異文化的な視点から社会現象を考察し、エビデンスを批判的に評価するとともに、理論的知見を現実社会の課題に応用する力を養います。</p> <p>社会科学分野における学際的な教育および研究能力の育成を通じて、本プログラムは、政策立案、組織運営、国際協力、学術研究といった多様な分野において貢献できる卒業生の輩出を目的としています。さらに本プログラムは、社会的・文化的多様性への理解と認識を涵養し、多角的な視点からグローバル化した世界を理解する能力を学生に身につけさせることも目的としています。</p> |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>国際社会科学プログラムの卒業生には、社会科学分野にまたがる総合的な視点と高度な専門知識とを併せ持つ人材となることが期待されています。卒業生は、グローバルおよびローカルな社会課題を的確に言語化し分析するとともに、エビデンスに基づく解決策を提示し、多言語・多文化環境において効果的にコミュニケーションを行うことができます。</p> <p>グローバル化した社会に不可欠な能力を身につけた卒業生は、官公庁、国際機関、多国籍企業、非営利団体、研究機関、教育機関など、幅広い分野で活躍することが期待されます。また、起業や新たな社会的価値の創出といった分野においても貢献することが可能です。</p> <p>卒業生は、国内外の機関、NGO、シンクタンク、教育機関・研究機関などでキャリアを築いています。さらに、一部の卒業生は、日本または海外の大学院へ進学し、専門分野における知識と研究力を一層深めています。このほか、国際社会科学の知見が求められるスタートアップやイノベーション志向の分野に進む卒業生もいます。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際社会科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. Understanding International Relations | In addition to its specialized fields, students will gain broad knowledge on international studies in general and various research methods. |
| | 2. Multidisciplinary Knowledge | Students are provided with skills and knowledge through the perspectives from different fields of social sciences, mainly economics, political science, sociology, and law. |
| | 3. Data analysis & application for social science research | Students are trained to mobilize, organize, analyze, and interpret data and information in social science research. |
| | 4. Fundamentals of negotiation skills | Students are given opportunities to develop the skills to engage in mutually beneficial negotiation on issues of local and international importance and context. |
| | 5. Policy-related fundamental skills | These courses are oriented towards practices of policy making, design and implementation. |
| | 6. Cross-cultural awareness skills | These courses offer fundamental knowledge to raise students' awareness on different cultures and perspectives that will encourage a broader understanding of local and global cultural landscapes. |
| | 7. Project analysis and completion skills | Students engage in research projects and seminars to identify, examine, and present key issues in social sciences. In the process, they create and present their graduation thesis to contribute to the production of socially relevant and meaningful knowledge. |
| | 8. Host culture integrative skills | By living and studying in Japan, students obtain a unique opportunity to engage, understand and contextualize the Japanese culture and its contribution to global welfare and society. |
| | 9. Interactive applied competence | Courses that provide opportunities for students to apply their skills and knowledge in practical contexts, allowing them to shape their capacity to solve and prevent problems in society. |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>学修成果の評価に関する方針</p> | <p>学修成果は、試験、小テスト、レポート、授業内での討議等を通じて評価され、大学の適切な能力評価に関する方針に基づき、汎用コンピテンスおよび専門コンピテンスの双方について、学生の達成度が確認されます。専門コンピテンスの達成状況については、理論的知見と実証的研究を統合した卒業論文によって、さらに評価が行われます。</p> <p>研究の過程においては、演習、中間発表、ならびに教員との個別相談等を通じて、指導およびフィードバックが提供されます。最終的な卒業論文の質および学術的厳密性は、ディプロマ・ポリシーの達成度を示す主要な指標となります。</p> |
|-----------------------------|---|

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

本カリキュラムは、以下の方針に基づいて編成されています。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>本プログラムの総合的な方針は、経済学、政治学、社会学、法学などの分野を包含する学際的な視点を通じて、グローバル化した世界における国際的課題を理解するための知識と手法を学生に提供することにあります。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>本カリキュラムでは、基礎科目から専門基礎科目、さらに専門科目へと段階的かつ体系的に学修を進めることにより、学生が知識を着実に修得できる構成となっています。最終段階では、これまでの学修成果を総合するものとして、卒業論文を作成します。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>本プログラムの教育理念は、グローバルな課題を幅広い視野から捉え、理論的観点と実証的データに基づく実践的課題解決の双方において、学際的に思考する力を学生に養うことを目的としています。</p> <p>この目的を達成するため、経済学、社会学、法学、政治学を中心とした学際的カリキュラムを編成するとともに、意見交換や議論を促進する授業を実施しています。また、米国ワシントンD.C.で開催される全米模擬国連への参加や、日本国内の高等学校と連携した合同ワークショップなどの活動を通じて、国際問題について議論する能力を高めるとともに、国際化の文脈における地域社会との連携を促進しています。</p> <p>さらに、インターンシップを通じて、学生は日本国内およびインド、モンゴル、中国、エチオピアなどの国々において、国際機関から民間企業に至る多様な組織で実践的な経験を積んでいます。これらの活動では、児童福祉の推進、食料安全保障、財務管理、マーケティング、グリーンエネルギーなど、幅広い課題が扱われています。</p> <p>これらすべての取組は、現在および将来の国際的課題の解決に積極的に貢献できるグローバル人材を育成することを目的としています。</p> |
|-------------------------|--|

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本プログラムでは、批判的思考力、実証的探究力、ならびにグローバルな視野を育成することを目的とした、特色ある教育方法を採用しています。教員は、学生が前提や通念を問い直し、社会現象を比較的・国際的な視点から分析することを促す教材を開発しています。</p> <p>カリキュラムでは、フィールドワーク、協働型プロジェクト、ケーススタディ、データ分析などのアクティブ・ラーニングを重視するとともに、国際機関、NGO、日本および海外の企業等におけるインターンシップを通じて、実務家との交流を促進しています。</p> <p>さらに、研究プロジェクトを通じた体験的学修や、国際的・多文化的な環境における地域連携活動を推進しており、その一環として、高等学校と大学の連携プロジェクトや、米国ワシントンD.C. で毎年開催される全米模擬国連への学生の参加を行っています。</p> |
|--------------------------------|---|

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|-----------------------|---|
| <p>求める人材</p> | <p>本プログラムでは、基礎的な学力を備え、グローバルな社会課題に対する知的好奇心を有し、論理的に思考し表現する力を持つ者を求めています。志願者には、国際的な視点から社会現象を分析することへの関心を示すとともに、主として英語で行われる学修に対応できる学習意欲と準備が期待されます。</p> |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>志願者は、学修の基礎力、論理的思考力、コミュニケーション能力、ならびに国際社会科学を学ぶ意欲を基準として総合的に評価されます。選抜方法には、書類審査、標準化された評価試験および面接が含まれます。特に本プログラムでは、明確な学修・研究目標を有し、グローバルな課題に対する問題意識を持つとともに、自律的に学ぶ姿勢を備えた志願者を重視しています。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>効果的な学修を確保するため、履修指導、研究指導、語学支援、ならびに国際的な活動への参加機会など、多様な学修支援を提供しています。研究方法および実証的研究に関する科目を通じて、学生はキャップストーン・プロジェクトを遂行するために不可欠な技能を身につけます。</p> |
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>演習、スタディ・グループ、学生主体の学術イベント、ならびに共用の学修スペースを通じて、ピア・ラーニングを促進しています。学生は、リーディング・グループや学際的なディスカッションなどの活動を自ら企画・運営し、学術的な協働と知的コミュニティの形成を図っています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>教員がオフィスアワー、履修・学修相談、ならびに個別のフィードバックを通じて、学生の研究活動および学修の進展を支援しています。少人数制の授業や演習により、学生と教員との密接な対話と指導が可能となっています。</p> <p>また、授業の枠を超えた交流を促進するため、“students, professors and staff liaison meetings”などの教員・学生交流行事を毎年実施し、相互理解と意見交換の機会を設けています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教員会議および質保証のための取組を通じて、学生の学修到達状況、学修成果、ならびにカリキュラムの有効性について体系的な点検・評価を行っています。授業評価アンケートの結果や、学生・教員間の意見交換を通じて得られたフィードバックは、カリキュラム、教育方法、学修環境の改善に活用されています。

また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する協議や定期的なカリキュラムの見直しを通じて、プログラムの目的に沿った質の高い教育の提供を確保しています。